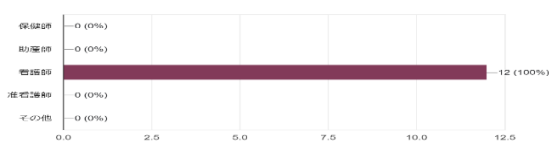


研修名	一般病院にける精神疾患対応力向上研修	
開催日時	令和6年9月11日(水)10時～16時	
研修形態	集合	
受講者数	17名	
対象	興味のある看護職	
ねらい	一般科の看護職が、精神疾患の理解を深め、偏見を抱くことなく精神疾患患者に対して、適切に対応することができる。	
講師	高知県立大学看護学部准教授 畠山 卓也	
内容	<p>一般病院でよく見られる精神疾患の状態像と対応方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神状態のアセスメントに必要となる代表的な精神症状について判別できる。 2.代表的な精神疾患の疫学、状態像(精神症状)を学び、健康の段階に応じた基本的な対応方法を判断できる。 3.精神疾患をもつ人とのコミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践できる。 <p>上記3点を目標とした講義・演習を実施</p>	

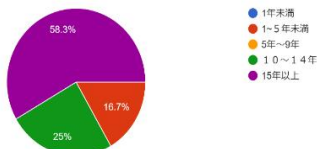
II アンケート結果

一般病院における精神疾患対応力向上研修 アンケート結果 <回答:12(67%)>

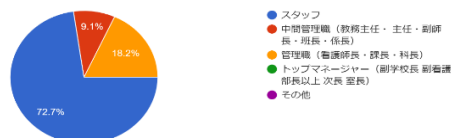
I-1 職種
12件の回答



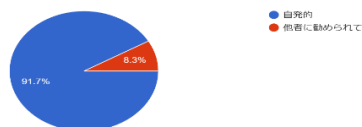
I-2 経験年数
12件の回答



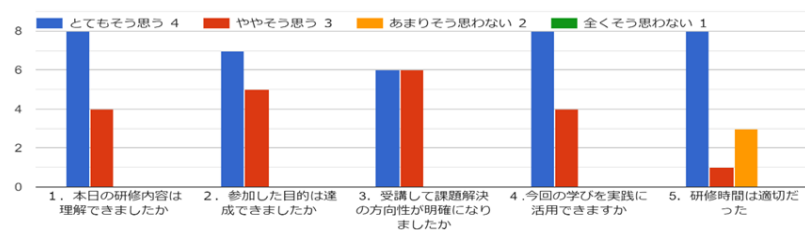
I-3 職位
11件の回答



I-4 本研修の参加
12件の回答

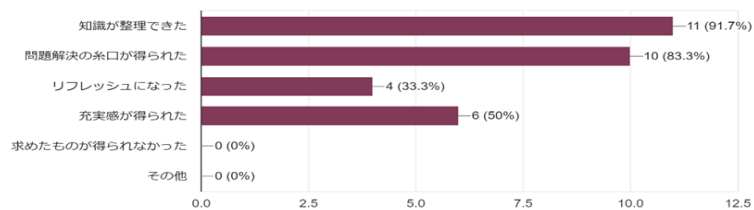


II 当研修の内容について



III. 本日の研修についての感想を以下から選んでください (複数回答可)

12件の回答



コメント

- 1.ロールプレイングの時間がもっと欲しかった。
- 2.丁寧に分かりやすい内容で、時間が足りないと感じた。
- 3.時間が足りない、もっと詳しく学びたい。

★ 日頃精神疾患を持つ患者と関わる中で、対応の難しさを感じる時はどんな時ですか。

IV. 日頃精神疾患を持つ患者と関わる中で、対応の難しさを感じる時はどんな時ですか

1. 認知症と精神疾患が混在している患者さんが増えてきている中で、認知症のせん妄なのか、精神疾患によるものなのかが判断できず、対応が正しいのかがわからない。

すぐに薬剤で対応する方向性になる傾向を何とかしたいと感ずることがある。

2. 会話の内容やタイミング

3. 同じ行動を繰り返し、同じフロアの他者より苦情があった時

4. 一度説明をしてもなかなか理解されるまで時間がかかる。何度も同じことを聞いてくる。

希死念慮のある方への言葉かけ。

5. 病識の欠如などから、コミュニケーションがとりにくい患者と関わる時。

6. 治療拒否

7. 拒食への対応

8. 精神疾患という思い込みが先行して、適切な対応ができない

9. 同じ状況でもみんな同じ答えにならず、関わる職員が嫌がったりして

同じ職員ばかりが関わってしまうこと。

10. 患者さんが頓服希望した場合、精神症状の観察はしますが、わりとすぐ頓服の服薬支援を

している状況にジレンマを感じている。薬剤に依存するのではない支援方法を教えて欲しい。

V. 精神保健に関して今後やってほしい研修があればご記入ください

1. その方が、在宅以外の地域の中で安心しておれる場所提供、年齢幅の工夫、

2. 一般病棟と精神科病棟の違い(安全対策の方法、精神疾患患者様の退院支援など。

3. それぞれの困難な事例をロールプレイングを通して、対応を検討する内容

4. 症状に応じた対応の演習

VI. その他、ご感想やご意見、今後希望する研修などを記載下さい

1. 参加できてよかった。

2. 精神疾患を抱える患者との関わり方のポイントを詳しく学べることができた。

ロールプレイや事例検討を行うことで、理解がしやすかった。

3. 呼吸理学療法

4. スライディングシートを用いた移乗、体位交換 ポジショニング 除圧グローブの活用

5. 口腔ケア方法 (気管内挿管中 他 経口摂取できない患者へのケア